

主の栄光は輝く

(イザヤ書 60 章 1-6 節、マタイによる福音書 2 章 7-12 節)

2020 年 12 月 26 日(日)

歳末礼拝説教

大串肇

はるばる東方から誕生したばかりのイエスを拝みに来た人たちがいました。聖書は彼らは何者であったのか、あまり詳しいことに関心はありません。三人の博士といわれていますが、三人にとも書いてありません。また、彼らは王様であったとも言われています。また、彼らはペルシャ人だったとも言われています。よくわからないのですが、重要なことは彼らが異邦人、すなわち、外国人だったということです。イエス自身はユダヤ人であり、ユダヤ人の救い主としてお生まれになりました。ところが今外国人にスポットライトが向けられています。かれらこそ最初に誕生の場面に招かれた人々でした。ここにイエスが全人類の救世主であるというメッセージがあるのです。

東方の博士たちこそ最初にイエスにあった人々でした。かれらの行動に注目しますと、この物語の核心が見えてまいります。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1、幼子イエスを拝む | =礼拝 |
| 2、星によって導かれた | =神の導き |
| 3、御子に捧げものをする。賛美して帰る | =神の恵みへの感謝あるいは
応答 |

神を礼拝する教会のなすべき歩みが象徴的に描かれているのではないのでしょうか。他方、ユダの王ヘロデはいわば闇の世界の代表です。御子を拝みたいと口では言っていますが、実はそれは口実でした。イエスを探し出し、殺害するのが目的です。自分の富や権力あるいは地位を守りたかったゆえに、彼は平気で嘘をつき、偽りを語り、欲望のままに殺人さえ厭わないのです。ヘロデはまさにこの世の闇、罪の世界を代表していないのでしょうか？このような危険や危機の中で、どうやって博士たちが無事に御子を拝むことが出来たのか。それは「星」の導きのおかげでした。これこそ神の働きです。この神の導きがあってこそ、かれらは御子イエスに出会うことが出来ました。

わたしたちもまた人生を切り開くのはあくまでも自分だと思って生きてきたのではないのでしょうか。だからがんばってきたのでしょうか。ところがそういうがんばるときはいいのですが、いちど躓いたり、道に迷いこんでしまうとなかなか立ち上がれなくなるのではないのでしょうか。人生がみえなくなる。また、自分の事しか考えられなくなったり、他人のことなど考える余裕もなくなってしまうことはないで

しょうか。ヘロデもいわば「見えなくなった」一人であったのではないでしょう
か。

ところが、ユダヤ人でも権力者でもない、外国人たちに救いの「しるし」が与え
られたのです。それが「星」でした。その星が彼らをイエスのところに導いたので
す。「見えないから」見えないのではない。神の導きに「委ねないから」「見えない
」のです。

わたしたちにもしるしを与えられています。そのしるしがヘロデの闇の世界の方
ではなく、神を信じる人々のところに輝くのです。イエスこそ、その輝く星です。
御子イエスはあなたのために命を捨てたのです。罪と滅びから救うためです。どん
なに寂しいときも、苦しいときもイエスの十字架があなたを照らしている。それが
東方の博士たちが経験した、そして2000年の時を経ても輝く光です。新しい年も、
十字架と言う神の愛のしるしを見失いで歩んでまいりましょう。神を信頼に、その
導きに委ねて歩んでまいりましょう。神を礼拝する人生は素晴らしい！主の栄光は
輝くのです。その神の栄光を仰ぎつつ、わたしたちは歩んでまいりたい。また、こ
の世の闇夜の中にたたずんでいる人のためにも祈ってまいりましょう。そのときあ
なたの命も輝くのですから。ご一緒に祈りましょう。